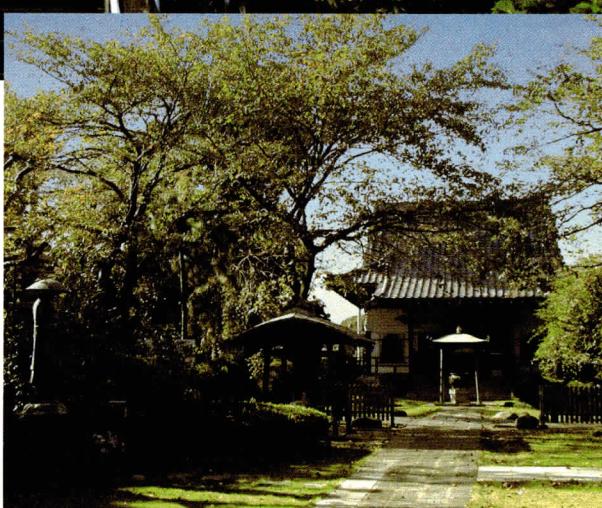


## 安行八景 (その五) .....

### 慈林薬師 《川口市安行慈林954》

聖武天皇の勅願で行基上人が開祖したといわれる  
川口最古の寺。

境内には往時をしのばせる莊厳な雰囲気が漂う。  
二体の仁王像のある山門も見事だ。



## 東福寺の ハクモクレン

川口市大字戸塚4152にある真言宗豊山派寺院、蓮王山観照院の山号。市内、西新井宿宝蔵寺の末寺、本尊は「新編武藏風土記稿」に金剛界大日如来と載っている。開山は不詳であるが、中興開山は源雅法印で、承応3年（1654）と伝えている。

寺中の地蔵堂は享保17年（1732）創建で地蔵、閻魔大王を祀り、地蔵の胎内には享保17年10月銘の願文があるといわれている。

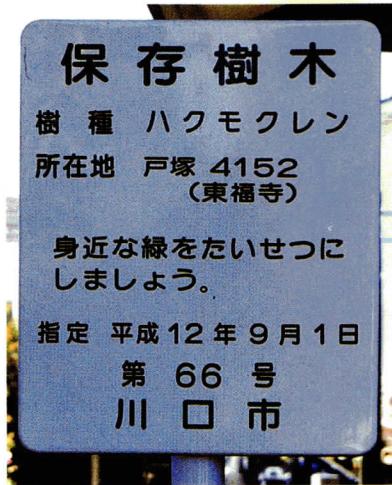
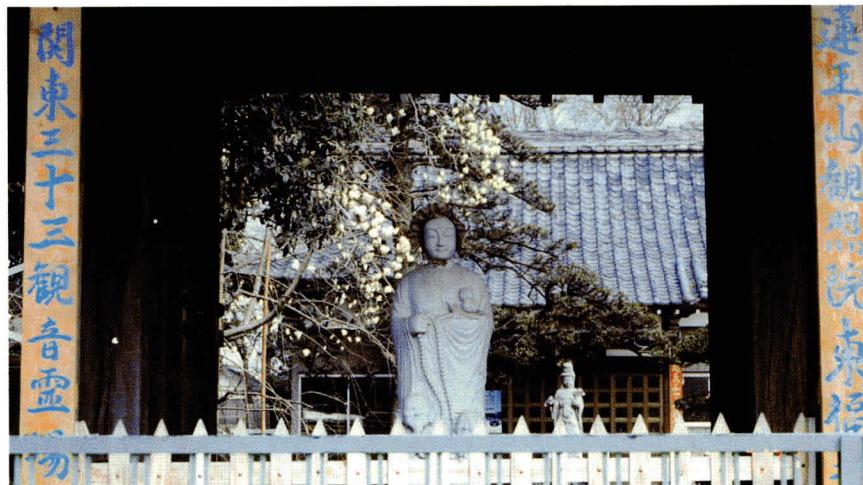
春3月、ハクモクレンを見に訪れた。斜面の竹林を左にして坂道を登る。植木畑と人家に囲まれた山門に出る。山門を遙か越えて、純白の花がボリュームたっぷりに眺

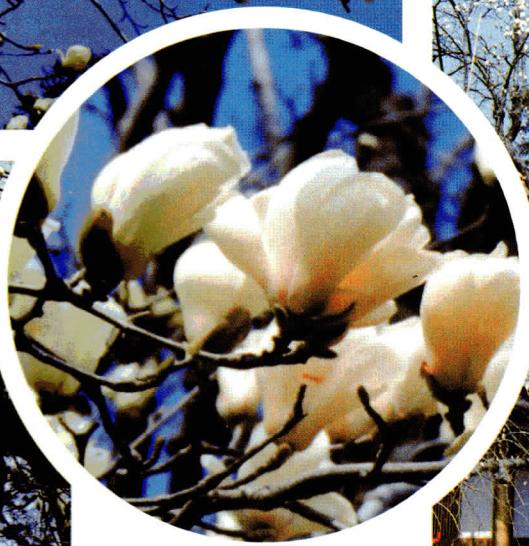
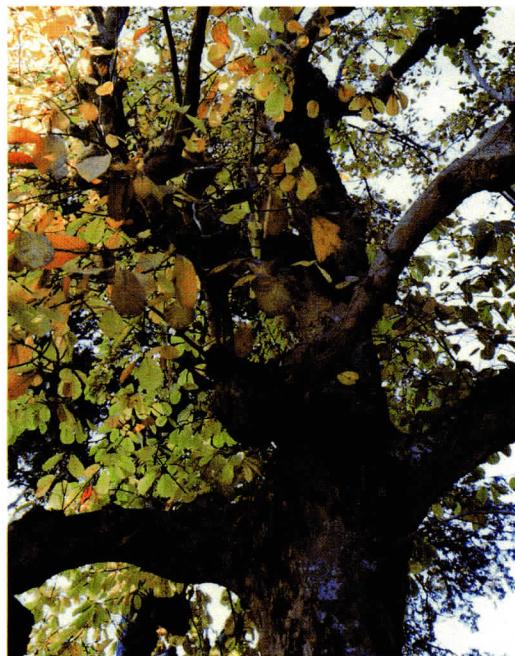
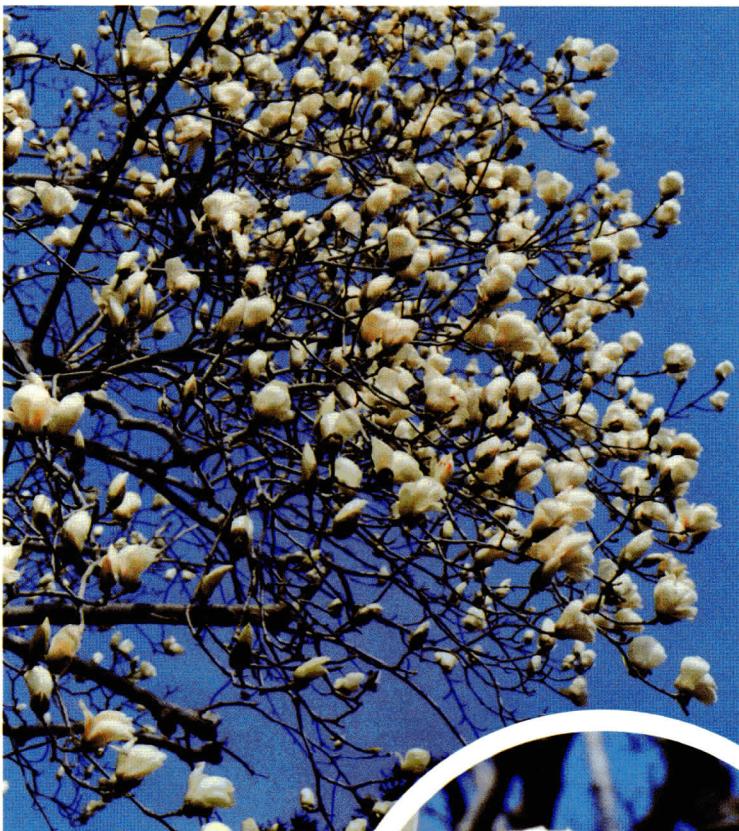
められた。ハクモクレンの目の前に立つ。遠目ではわからなかったが、ごつごつしたコブ状の太い枝が印象に残った。すぐ脇に立つ表示板には、『保存樹木 樹種 ハクモクレン、所在地 戸塚4152（東福寺）身近な緑を大切にしましょう。指定 平成12年9月1日 第66号 川口市』と記してあった。高さ14m、幹周り1.4mである。

11月中旬、再度訪れる。

脳裏に焼き付いた、純白のたわわに咲き誇ったハクモクレンの姿は今は無い。すっかり黄ばんだ葉は、風と共に落下していく。やがて来る冬。そしてその向こうにある己の晴れ姿を予見しているかのごとく、落ち着きはらったハクモクレン。

南天の赤い実、ドウダンツツジの紅葉、そしてピラカンサの深紅の実に囲まれた境内の不動明王の前で、白装束のご婦人が一心にお経を唱えている。東福寺住職の奥様とのこと。いつまでも続く読経が晩秋の虚ろな陽差しに包まれていた。





*Magnolia haptapeta* (Buchoz) Dandy モクレン科

別名：玉蘭、ハクレン、ハクレンゲ

庭園に植えられる落葉高木で、高さ5m以上になる。葉は互生し、倒卵形ないし橢円状卵形、長さ8~15cm、幅6~10cm、基部はくさび形、先是鈍形で頂端は突出し、やや厚く、裏面脈上に軟毛があり、長さ1~1.5cmの柄がある。

花は3~4月、葉の展開する前に開き、径10cmくらい。花被片は9枚、狭倒卵形で3枚ずつ輪生し、萼片と花弁の区別はなく、白色。雄蕊は多数、花糸は短い。花後、花床は伸張して長さ10cmくらいになり、袋果は裂開し、赤色の種子が珠柄で垂れ下がる。

中国東部の原産。非常に古くから栽培されているため詳しい野生地は不詳である。

【註：川口市の要項で、昭和55年11月に保存樹木に指定。川口市緑のまちづくり推進条例施行規則により、平成12年9月に再指定。】



# 一年中咲き続ける花 地涌金蓮

ちわきんれん  
**地涌金蓮**

開花株に成長すると、咲き出した花は、一つの花が次から次へと継続して花弁を展開し、一年間咲き続ける夢のような植物です。中国南部からインドシナ半島の1,500m～2,500mの山の斜面に分布します。

地涌金蓮は中国名で、学名は*Musella lasiocarpa* バショウ科です。

◆中国の本『雲南名花鑑賞』によると、

- ・20世紀後半、1970年代になってから栽培されるようになった。
- ・「一年四季均有花、但以冬春時期為多、花期可持続半年以上」の文字がある。
- ・栽培の歴史は比較的新しい。

◆清の時代（1616～1912）の吳基濬の著書には簡単に次のような記述がある。

- ・「地涌金蓮は、雲南山中に自生する。芭蕉の如し。葉は短い。中心から一花が突出してくる。それは黄色の蓮のようだ。古い弁は仏像の蓮華座のような形態になる。」

まだ、あまり馴染みのない植物ですが、安行の地で十分外で越冬します。エキゾチックなその姿は、いわゆるガーデニングの中に取り込んでピッタリという雰囲気です。



地涌金蓮は「地面からわき出た黄金の蓮の花」の意味です。

繁殖は株分け（親株の側に腋芽が出る）と種子。

茎に見えるのは偽茎<sup>\*</sup>で、高さ60cm位、葉の長さ50cm位の長楕円形。

花序は長さ20cm位、直立し、黄色い苞におおわれる。

※偽茎：葉の葉鞘<sup>\*</sup>部が重なり合って、一見すると茎のように見えるものをいいます。

葉鞘：葉柄の基が茎を抱いて鞘状になっている。イネ・ススキなどに見られる。





## 地下鉄が結んだ安行と駒込

今年（平成13年）3月28日、待ちに待った念願の地下鉄（埼玉高速鉄道）が開通した。東京都北区赤羽（南北線）から川口市、鳩ヶ谷市を通り、さいたま市大門迄がつながった。

南北線駒込駅周辺は、その昔、日本の園芸植物で有名な染井村を擁していた。安行の大先輩である。

駒込染井は、桜前線の指標になっている桜の品種『染井吉野』の発祥の地でもある。駒込の商店会で組織している〈染井よしの桜の会〉との交流が始まり、藍染め教室が開催された。〈染井よしの桜の会〉会員である「草木染め工房」の協力を得て、多くの川口市民や子供たちが参加して樹里安で行われた。



### 染井とはどんなところか

この地は、もと一農村であったが、元禄（1688～1704）の改めにより、駒込村枝郷染井村となり、その後、上駒込染井といわれた。

文久3年（1863）10月、英國の植物学者ロバート・フォーチュン氏が出版した『江戸と北京』（三宅馨訳）の中で、第7章「染井村の壯觀」の項に、「交互に樹々や庭、恰好よく刈り込んだ生垣がつづいている。公園のような景色に来たとき、隨行の役人が染井村にやっと着いた、と報せた。その村は、全体が多くの苗樹園で網羅され、それらを連絡する一直線の道が、1マイル（約1.6km）以上も続いている。

私は世界のどこへ行っても、こんなに大規模に、売り物の植物を栽培しているのを見たことがない。植木屋はそれぞれ、3、4エーカーの地域を占め、鉢植えや露地植えのいずれも、数千の植物がよく管理されている。どの植木屋も大同小異なので、その一つを記述すれば、全体の巧みな趣向がわかるだろう。

日本の植木屋には、寒気に弱い植物を保護栽培するために、みんな一緒に詰め込んでいる。そこでサボテンやアロエのような南米の植物を注目した。それらはまだ支那では知られていないのに、日本に来ていたのである。実際それは、有利な識見による日本人の進取の気質をあらわしている。かわいらしいフクシャの種類があったが、また別の外来種も目についた。》

このように、当時染井村は世界でも有数の植物の生産地であったことがよくわかる。

以上『染井稻荷神社の由来と染井村』 豊島区文化財調査委員・鴻森正三 ヨリ抜粋



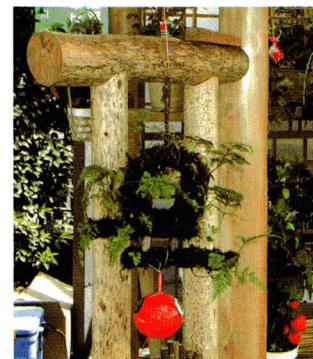


## 川口緑化センターの主なイベント（結果報告）

### ■ アサガオ・ほおづき市

平成13年7月7日(土)～8日(日)

夏の風物詩である「アサガオ」「ほおづき」そして「鑄物風鈴」の販売を行い、来場者に大変好評でした。



### ■ 押花展

平成13年8月18日(土)～26日(日)

様々な植物を、シリカゲル・吸水紙を駆使して圧搾し、短時間に強制脱水した植物標本は、その植物本来の色合いが鮮明に残っている。出来上がった標本「花・葉・茎・実・木の皮」等を素材として、色・形などを見立てて、貼り絵のように一枚の作品に仕上げてい

く。作品55点は、風景・創作模様その他多岐にわたり、額に納まった姿は、まさに芸術。見る人達に感動を与えた。また体験教室では、種々の素材を使っての「茉(しおり)」作りが好評でした。



### ■ 第53回 秋の安行植木まつり

平成13年10月6日(土)～8日(祝)

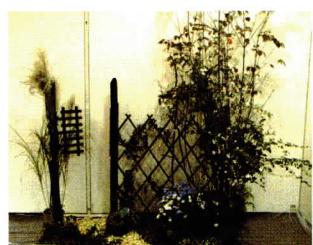
恒例の植木まつり。大勢のお客様でにぎわいました。

#### ◆ 緑のまちづくり市民運動

ミニ庭園作製コンテストの作品展示(10点)、ハンギングバスケット作製コンテストの作品展示(30点)

#### ◆ 小品盆栽の展示販売

若い二人連れが気に入った販売品を大事そうに手にして、更に展示品に見入っているほほえましい姿も見られました。





# 植物・園芸用語解説 シリーズ10

- ☆ 寒冷紗：かんれいしゃ 蚊帳のようなもので、日除けとして使う。半日陰の状態を作る。日除率（遮光率）が30%、50%、70%など何種類もある。
- ☆ ラス：細引きの板に隙間を空けて工作し、日除けに使うもの。
- ☆ スノコ：植木鉢の底が、土やコンクリート等に直接触れないようにするもの。風通し・水はけを良くし、泥はねを防ぐことができる。
- ☆ 葉水：はみず 植物の葉に水をかける管理方法。日中の暑さを軽減する。鉢植えの植物が弱っていて、しかも乾きが悪い場合、葉に水をかけて灌水の代わりをすることがある。湿度を保ち、萎れを防ぐのに有効。
- ☆ 水切れ：みずぎれ 用土中の水分が不足して、植物が萎れること。
- ☆ 熱水：ねつすい 夏場の灌水に注意。ホース内に残った水は、とんでもない温度に急上昇！火傷するほどの熱湯と化していることがある。ホース内の水抜きをして、冷たい水が出てくるのを確認してから水やりをする。
- ☆ 打ち水：うみず 生きとし生けるもの、皆ぐったりかと思わせるような夏場の暑さ。植物の周辺や鉢周りなどに、朝夕水をやるだけで、一瞬冷気が漂います。高温多湿の夏場を乗り切る方法の一つです。
- ☆ 断熱鉢：だんねつぱち 肉厚の鉢で、外気の暑さ・寒さの影響を直に受けるのを防ぐのに有効である。難しい高山植物を栽培するときなど利用するとよい。
- ☆ マルチング：圃場の上にかぶせ、土壤の物理的な劣化等を防止する方法。灌水が毎日続くと土が次第に固くなり、植物の生育に影響してくる。また、泥はね・地温の保持・雑草の発芽抑止などに効果がある。マルチング材としては、ビニール・ワラ・堆肥・バークなどがある。
- ☆ 誘殺剤：ゆうさつざい 虫を匂いなどで誘い出して退治する薬。ナメクジ・ダンゴムシ・アリなどに効果がある。

